



南ノ島 (フェーヌシマ)

をきって回り舞台奥に立つ。すると頭にかぶりものした男たちが、勢いよく出て(ハウ)と言う掛け声をかけながら舞台を周り、2組に分かれる。そこで歌が始まり、歌に合わせて踊る。歌が終わると腕をかけあわせ力比べをする動作をし、上手に退場する。トンツン小が退場すると、すぐにかぶり物の男達が、今度は棒を持って登場し2組にわかれ、棒を打合わせる所作の後上手に退場する。」と記録しています。

名嘉真も仲泊も歌詞に不明な点が多く、所作もだいが異なることから見比べてみるのも面白いかもしれません。

### 《獅子舞》

獅子舞があるのは名嘉真と山田だけなのですが、実はとても深い関わりがあるので。広報おんな(1993年11月1日発行 NO.163)には、次のような記述があります。

「山田村(現在の山田区)において、獅子舞が始められたのは、今から約110年前だと言われています。村人の言い伝えによると名嘉真村(現在の名嘉真区)に雄雌の獅子があり、恩納間切(現在の恩納村)の間で話し合われて、山田のコー(\* 龕)と雄獅子を交換したのが始まりだと言われています。当時コレラが発生し、その魔よけとして獅子舞をおこなったとも伝えられています。また、恩納間切北の名嘉真村に雌獅子、南の山田村に雄獅子が置かれ、恩納間切の守り神として獅子舞が行なわれたと伝えられています。」

昔から獅子を舞わずことよって悪霊を祓い、五穀豊穡と繁栄をもたらすと考えられてきたようです。山田では、豊年祭がなくなってしまうたのですが、今でも旧暦8月15日には獅子舞が披露されています。名嘉真には獅子を納める「獅子屋」があり、集落の入り口に向かって鎮座し、大事に保管されています。いずれも恩納村の北と南の守り神としての役目を果たしているのですよ。

名嘉真の豊年祭は、少しずつ変化を遂げながらも、地域の大事な年中行事として毎年行われていますので、ぜひ現地でご覧頂きたいと思えます。

それから財団法人地域創造の助成を受け2015年度に恩納村教育委員会が行った伝統芸能等保存事業(監修:板谷徹氏)において収



獅子舞

録されたDVD「名嘉真の豊年祭」もあります。豊年祭(本番)のみならず、練習風景や拝みの様子まで細部にわたって収録されています。恩納村文化情報センターで視聴できますので、こちらもあわせてご利用ください。(町田)

\* 龕・・・遺体を入れた棺を運ぶ、みこしのうなもの。

### (参考文献)

- 『沖縄大百科事典』 沖縄タイムス社 1983
- 『いやしの里 名嘉真』 恩納村名嘉真区 2012
- 『道草くって米寿』 仲村好正 2008
- 城間義勝氏調査報告 (2018年5月11日付)